

大分県外国人総合相談センター おおいた国際交流プラザ

No. 16
Spring
2023

令和4年度 多文化共生推進講演会

令和5年1月21日に大分県消費生活・男女共同参画プラザ大会議室で、NPO多文化共生プロジェクト代表の深江新太郎さんを講師に招き、『『サードプレイスとしての日本語教室』が推進する多文化共生』の演目で講演をしていただきました。大分県の委託事業の日本語教室ネットワーク会議と国際交流団体ネットワーク会議の合同開催として実施し、県内の日本語教室や国際交流団体の関係者、行政職員、約50名が参加しました。

講師の深江さんは、福岡県を拠点にNPOの代表として「在住外国人が自分らしく生活できるような小さな支援を行う」活動を展開しています。また、文化庁や福岡県などの委嘱を受け、九州を中心に市町村における地域日本語教室の立ち上げ等の取組を支援しています。

講演では、地域日本語教室は日本語を教えるだけではなく、家庭、学校・職場でもない「サードプレイス」として、外国人と地域とのつながりを生むことが大事である。また、外国人の十分ではない日本語からその思いを汲み取る「聞く協力」で彼らの日常生活の小さな望みを一つずつ実現に結びつける役割を地域の日本語教室に期待したいとお話でした。

講演後の意見交換では、日本語教室関係者から地域のボランティアとともに進めている外国人等の居場所づくりの取組が紹介されたほか、外国人の参加者から日本のルールや習慣を学べる場所が必要だとの意見を受け、講師から日本語教室がその役割を担うことが共生社会の実現に必要ではとの考えが示されました。



information

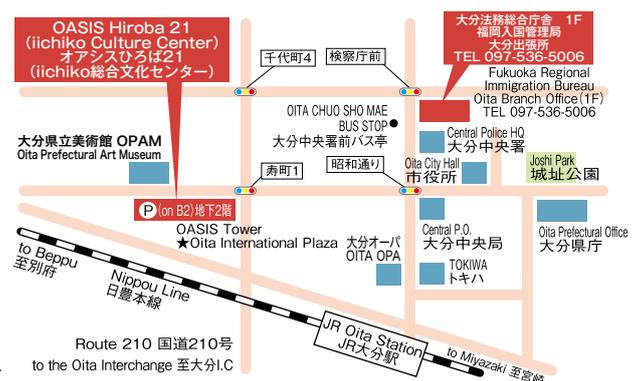
〒870-0029 大分市高砂町2-33 iichiko総合文化センター 地下1階
TEL 097-529-7119 (相談センター)
TEL 097-533-4021 (国際交流プラザ)
FAX 097-533-4052 (相談センター・国際交流プラザ)
URL: <http://www.oitaplaza.jp/> (相談センター・国際交流プラザ)
E-mail: oisc@emo.or.jp (相談センター)
E-mail: in@emo.or.jp (国際交流プラザ)

時間 月～土 (相談センター・国際交流プラザ)

10:00～17:00 (相談センター)

9:30～18:00 (国際交流プラザ)

※日曜、祝日、iichiko総合文化センター休館日および年末年始はお休みです



災害時外国人支援セミナー(実地研修編)

令和5年1月13日・14日に別府市役所レセプションホールで、災害時外国人支援セミナー(実地研修編)を開催しました。このセミナーは、一般財団法人自治体国際化協会(クリア)が主催し、多文化共生マネージャー全国協議会が実施する「災害時に外国人支援に従事する関係者向けの九州ブロック研修・訓練事業」と共同で実施したもので、別府市をはじめとする県内の行政関係者、国際交流団体の代表者、及び九州各県・政令市の国際交流協会関係者など、延べ82名が参加しました。

多文化共生マネージャー全国協議会九州・沖縄ブロックの北御門理事が進行を務め、1日目は、冒頭に県国際政策課の三股課長が県内の取り組みの状況を、クリア多文化共生課の関根課長が全国の多文化共生の取り組みと今回の研修の意義を説明しました。次に、仙台観光国際協会の須藤国際化事業部長が「災害時の外国人支援とは」と題して、平成23年の東日本大震災の経験を踏まえた外国人対応についての基調講演を行いました。最後に、佐賀県国際交流協会の矢富企画交流課長がファシリテーターとなり、災害時における外国人対象の情報発信・避難所等で外国人の相談に対応する多言語支援センターの設置について、グループに分かれてワークショップに取り組みました。



2日目は、別府市在住外国人9名が避難者役で参加し、研修参加者がグループごとに避難状況などについて多言語で聞き取りをしました。その後グループ別に避難所対応について課題と問題点を振り返り、最後に多文化共生マネージャー全国協議会の土井代表理事が研修・訓練のとりまとめを行いました。

県内と九州ブロックの関係者が共同で取り組んだ初めての実地研修・訓練でしたが、災害時における外国人支援の初期対応の理解と県内外の支援関係者の連携が図れたものとなりました。

令和4年度日本語教室・日本語ボランティア研修(東部地域)

外国人に日本語を教えるボランティアを育成するための研修として、令和2年度から県内を6ブロックに分け、県北、中部、県南、西部、豊肥地域と順次開催してきました。最後となった東部地域での研修を1月22日、29日、2月5日の各日曜日に国東市安岐中央公民館で開催し、延べ98名の方が受講しました。また、講師はこれまでと同様に大分県日本語教育総括コーディネーターである立命館アジア太平洋大学言語教育センター長の本田明子教授に務めていただきました。

初日冒頭に、主催者を代表し大分県国際政策課の三股課長が挨拶を行い、近年、増加する外国人住民が安心して暮らすためには日本語教育が不可欠であるなどのお話がありました。研修では、日本語ボランティアの役割から始まり、外国語としての日本語の特徴や、授業の組み立て方と教案作成など、日本語教育の入門編について3日間、15時間にわたり、実践形式のグループワークも交えながら本田先生に講義していただきました。

寒波襲来の寒い時期に重なりましたが、皆さん熱心に受講し、アンケートでは「改めて日本語を考える良い機会となった」、「引き続き学習を続けたい」などの感想がありました。

また、受講生同士で連絡先を交換するなど交流も生まれました。今回の研修を機に、日本語ボランティア活動が地域で広がることを期待します。



相談事例

① センター相談

Q 外国人です。働いていた会社が倒産し、給料をもらっていません。どこに相談すればよいのでしょうか？

A 企業倒産により賃金が支払われないうまま退職した労働者に対して、未払賃金の一部を立替払する「未払賃金立替払制度」があります。最寄りの労働基準監督署で相談ができます。
大分労働基準監督署(TEL:097-535-1511)
URL: <https://jsite.mhlw.go.jp/oita-roudoukyoku/kantoku/302/200873.html>

② 専門家相談

Q 日本に住んでいる同じ国出身の外国人が離婚する場合、日本と出身国どちらの法律を基準に考えればいいですか？

A 夫婦の本国法が同じ場合、離婚の準拠法はその本国法に従います。離婚後も引き続き日本在留を希望する場合は、在留資格の変更手続きが必要になるケースがあるので注意してください。



③ 専門家相談

Q 外国人です。在留資格を更新して将来的に永住を考えています。高度人材ポイント制について教えて下さい。



A ポイント計算により、高度外国人材と認定されれば出入国管理上の優遇措置を受けることができる制度です。詳細については出入国在留管理庁HPをご確認ください。
URL: https://www.moj.go.jp/isa/publications/materials/newimmact_3_system_index.html

④ 専門家相談

Q 外国人です。現在の在留資格は「技術・人文知識・国際業務（※技人国）」です。働きながら、自分の会社を設立し運営することは可能でしょうか？

A 「技人国」は企業に所属して働くためのビザなので、会社を経営することはできません。会社経営を考えているなら、在留資格を「経営・管理」に変更する必要があります。

専門家相談 中国語相談 タガログ語相談

※相談員の都合でお休みになることがあります。 ※詳細はHPでご確認ください。

▶ 専門家相談

■日時 毎週土曜日 13:00～16:00 ■場所 おおいた国際交流プラザ iichiko総合文化センター 地下1階
■相談員 外国人Life Support所属行政書士ほか ■費用 無料 ■申込 不要

事前の予約は必要ありませんが、専門家により専門分野が異なることや通訳が必要な場合がありますので相談内容を予めセンターにお知らせください。

▶ 中国語相談

■日時 毎週木曜日 10:00～13:00 ■場所 おおいた国際交流プラザ iichiko総合文化センター 地下1階
■相談員 おおいた国際交流プラザ 中国語相談員 ■費用 無料 ■申込 不要

▶ タガログ語相談

■日時 毎月第1土曜日、第3火曜日 13:00～16:00 ■場所 おおいた国際交流プラザ iichiko総合文化センター 地下1階
■相談員 大分県フィリピン友好協会所属相談員 ■費用 無料 ■申込 不要

日语与我

初遇

我和大部分中国学生一样，考一所理想大学为目标按部就班地上小学，初中，高中。但是在这个过程中，我忘记了问问自己喜欢什么？以后想做什么？所以在面对大学里数百上千的专业之时，只是听从了长辈的建议，学习了日语。

初识

真正开始学习之后，更偏向理科思维的我在学习日语时很是吃力，再加上周围同学的大部分因为喜欢日本动漫，游戏、日本文化等，出于兴趣学习日语，而我对此毫无兴趣，所以我的大学生活，或者说我的日语学习就像是在完成任务，寡然无味。

初知

大三的时候，抱着“好不容易学一次日语，总要去日本看一看”的想法，我来到了新潟留学。在那里，认识了来自国内及其他国家的留学生，还有日本学生……用我憋足的日语和大家聊天，学习之余在寿司店打工接触社会，和朋友出去玩开阔眼界。短短的一年时间，还经历了日本的地震、台风及疫情。

正是这次短暂的交换留学经历，让我庆幸学日语还不错。我认识了很多，听到了很多事，学到了很多知识，开拓了眼界，有所成长，有所收获。

未来

我与日语的缘分不会因为学生时代的结束而结束，留日工作也是我下一个人生目标。我来到日本，很多人都问过我“你为什么来日本留学？”答案很简单，我学了日语，日语是我看世界的眼睛，我通过学日语有机会留在大分大学留学，未来的我也还会因为我学日语有更多可能性。

我始终相信，人生漫长，经历才是唯一的答案。



楊悅

我来自黑龙江省哈尔滨市，2019年4月至2020年2月于新潟県立大学交换留学。

2020年10月入学于大分大学经济学研究科，期间休学一年，2022年6月来到大分。

汉语咨询

欢迎您来大分国际交流广场。

您想了解如何排解在日生活中发生的各种困扰吗？

您想咨询大分县人土风情文化和独特的美食吗？

那就来大分国际交流广场吧！

这里有可以用母语交流的工作人员等候您的来访。愿为您的生活排忧解难，愿为您提供多文化共生环境的国际交流，愿为您的生活增添一份愉悦和欣喜。

时间：每周四10:00---13:00

场所：大分国际交流广场

iichiko综合文化中心 地下一层

费用：免费

TEL:097-533-4021

网上咨询 :oisc@emo.or.jp

自由参加





THE TOMBO

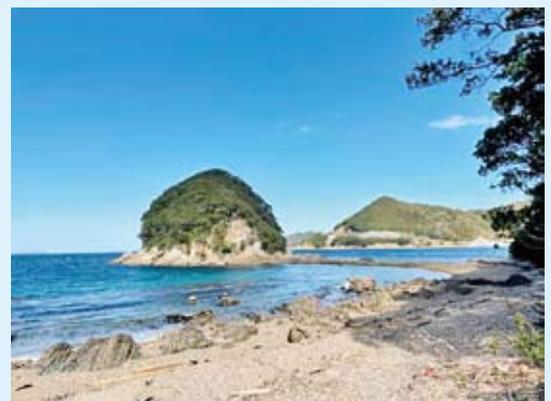


Tsukumi was one of the few places in Oita that I hadn't been yet. I've passed through on the way to Saiki, but never actually seen the town itself. I definitely did not expect a town with white, carved out mountains and pipes full of limestone crossing the sky. Tsukumi is a mining town, turning limestone into concrete, using pipes to get material from one plant, to another, to another. A trip to the main part of the city itself is worth it just to see the unique scenery. However, our journey to Tsukumi was to see two things in particular: *kawazu* cherry blossoms and Ajirojima. Kawazu cherry blossoms are one of the earliest blooming types of *sakura*, and start opening up in February. The Youra Peninsula is absolutely



filled with *kawazu sakura* trees, and the combination of chipped-away mountainsides and bright pink flowers is probably something you won't see anywhere else. Which of course leads to all kinds of people coming to see them. We even ran into a group taking wedding photos all over the peninsula. I think that was the first time I've ever seen someone wear jeans under a wedding dress, but to be fair it was pretty cold and windy. At the tip of the peninsula is an island called Hotojima, where apparently a bunch of people who got rich off the tuna trade live. Getting rich and living on an island in the middle of nowhere kind of sounds amazing to me, but I'd probably go with Himeshima. At least they have good Wi-Fi.

Ajirojima is an island a bit to the west of the Youra Peninsula. I say "island," but in reality, there's a land bridge you can take to reach it during low tide. I guess that makes it a "semi-island" ? At any rate, an island you can cross over to at low tide isn't a new thing for me, but an island like Ajirojima definitely is. It's absolutely full of some very interesting types of rocks. I know the words "interesting" and "rocks" don't usually go together unless you're talking about fossils or you're a geologist, but these rocks have the history and the looks to back up the description. The island is mostly covered by chert, a type of sedimentary rock, which comes in all sorts of colors depending on the level of oxygen during the era they started being formed: black, green, purple, red. It makes sense. More oxygen means more living things, which means more different looking rocks. One of the most interesting parts of this is that you can literally see life on earth springing back from the greatest extinction event of all time (the Permian-Triassic extinction event). This may be a bit too poetic, but seeing the layered rocks change from pure black to full of color could even give you a bit of hope for the future. Even if the world ends, life will find a way. Speaking of, if you're getting a tour of the island and hear about how *uchuujin* were found there, it does *not* mean they found extraterrestrial life (宇宙人), but space dust (宇宙塵). But that is still really cool in my eyes. A piece of space's history just happened to land at a place full of earth's history. Like a fallen star.



Festivals and Events

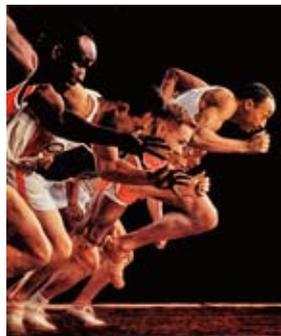
県内イベント案内

※掲載のイベントは、予告なく中止・変更になる場合があります。

2022コレクション展Ⅳ 造形紀行「デザイン」の楽しみ

企画展「イメージの力 河北秀也のiichiko design」と時期を同じく開催される本展では、「デザイン」を幅広い視点から捉え、所蔵品にみる「デザイン」の諸相を紐解きます。本展が「デザイン」について考える一つのヒントになれば幸いです。

開催期間／開催中～4月10日(月)
会場／大分県立美術館 3階
コレクション展示室
観覧料／一般300(250)円
大学・高校生200(150)円
※中学生以下は無料
※()内は有料入場20名以上の団体料金
※開催中の企画展半券提示で1枚につき1回無料



TOKYO 1964

デザイン/亀倉雄策、フォトディレクター/村越襄、写真/早崎治《オリンピック 東京大会第2号ポスター》1962年(展示作品:1990年版、大分県立芸術文化短期大学美術科所蔵)



デミタスカップの楽しみ

濃いコーヒーを飲むための小さなコーヒーカップ、デミタス。本展では2000点以上のデミタスカップを所蔵する村上和美さんのコレクションから約380点を精選してご紹介します。当時のデザインの流行を反映させた作品から、繊細な装飾、大胆な意匠を凝らした作品まで、小さなカップに凝縮された華麗な美しさをご堪能ください。

開催期間／4月1日(土)～5月28日(日)
会場／大分県立美術館 3階 展示室B
観覧料／一般900(700)円 大学・高校生700(500)円
※中学生以下は無料
※()内は前売りおよび有料入場20名以上の団体料金



コールポート《メダリオンとジュール金彩カップ&ソーサー》1891-1919年



大分県芸術文化友の会
OITA PREF ARTS & CULTURE MEMBERSHIP
メンバー募集!



OpAM
大分県立美術館



JICAデスク 大分からこんにちは!

「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2022」が実施され、今年も受賞報告の季節となりました。中学生の部は1996年から始まり2022年度で27回目、高校生の部は1962年から始まり61回目を迎えました。

今年度のテーマは「世界とつながる私たち～未来のための小さな一歩～」。全国から総数43,880作品(中学生の部19,832作品、高校生の部24,048作品)ものご応募をいただきました。昨年度比で総数は4,505作品減(中学生の部3,338作品減、高校生の部1,167作品減)となり、全体では応募者数が減少した結果とはなりましたが、ご応募下さった皆様、誠にありがとうございました!

厳正なる審査の結果、大分県からは国内機関長賞2名、特別学校賞1校の受賞がありましたので、お知らせいたします。本当におめでとうございます!

<中学生の部>

- 独立行政法人国際協力機構 九州センター 所長賞:
学校法人平松学園 向陽中学校1年 戸上 純弥さん
タイトル「今自分にできる小さな一歩」
- 特別学校賞:学校法人平松学園 向陽中学校

<高校生の部>

- 独立行政法人国際協力機構 九州センター 所長賞:
大分県立佐伯豊南高等学校3年 松尾 星さん
タイトル「壁との向き合い方」

表彰にあたり、JICAデスク大分が代表して学校を直接訪問し、賞状および副賞を、特別学校賞には記念の盾も併せてお贈りさせていただきました。

高校生の部で国内機関長賞を受賞した松尾星さんは、「今後はコンビニなどの日常生活の中で外国人を見掛けたりした際には、挨拶してみるなど、積極的に話しかけていきたい」と話していました。

特別学校賞を受賞した向陽中学校では、2006年の開校以来、1年生は夏休みの課題として、本コンテストのエッセイに取り組んでおられます。長年の功績を称え、4年連続の特別学校賞受賞となりました!

本コンテストは、次の世代を担う中学生・高校生を対象に、開発途上国の現状や開発途上国と日本との関係について理解を深め、国際社会の中で日本、そして自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考えることを目的として実施しています。是非ご活用ください!



JICAデスク 大分

iichiko総合文化センター(B1F) おおい国際交流プラザ内
担当: JICA九州・大分県国際協力推進員 井本
TEL: 097-533-4021 (おおい国際交流プラザ直通)
E-Mail: jicadpd-desk-oitaken@jica.go.jp

プ ラ ザ よ り



国際理解講座③ ジャマイカ編

2月4日にIichiko総合文化センター 映像小ホールで「国際理解講座③ジャマイカ編」を開催しました。講師にジョヴィ ジョアンナ ウィリアムズさん（JICA長期研修員 立命館アジア太平洋大学研究科在籍）を迎えた今年最初の講座は日英逐次通訳で行われ、30名の方にご参加いただきました。

講座はまず講師の自己紹介、そしてジャマイカの文化や歴史、観光、日本とジャマイカの関係など様々なテーマを写真や動画を織り交ぜながら話していきます。ジャマイカと言えば、ボブ・マーリー、元陸上競技単距離のウサイン・ボルトやブルーマウンテンコーヒーが有名ですが、観光立国としての顔を持つジャマイカのお勧め観光地（イギリス統治下時代の面影が残る建物やカリブ海の島国ならではの自然あふれる景観）やジャマイカ人が掲げるONE LOVEの精神、講師が日本に来て感じた日本とジャマイカの違いや類似点などもお話いただきました。

また、講師が用意したジャマイカンスイーツ（ココナッツ ドロップス）の試食タイムではブラウンシュガーの甘さの中にスパイスを感じる日本人にはあまり馴染みのないスイーツを楽しみ、講師が出題した問題の正解者2名にジャマイカ産ブルーマウンテンコーヒーが進呈されました。

質疑応答では参加者が積極的に質問し、答える講師の真摯な姿勢と和やかな雰囲気が講座に一体感を持たせ、参加者の皆さんのジャマイカに対する興味や好奇心を満たす盛りだくさんの内容になりました。



外国語図書無料配布

2月17日、18日に外国語図書無料配布を、おおいた国際交流プラザ研修室で実施しました。新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度の開催が延期されて以来4年ぶりとなりましたが、沢山の方に関心を持っていただき約40名に外国語図書106冊と英字新聞をお持ち帰りいただきました。

多言語図書コーナーに配架できない古い本や寄贈本はジャンル別に分けられ、来場者は好みの本を手にとっていきます。今回は語学テキストが多く、専用コーナーに並べられたテキストは子供を連れのお母さんや語学習得を目指す方に大変好評でした。帰る際にアンケートの協力をお願いし、イベントを知ったきっかけ等いくつかの質問に答えていただきました。今回、初めて参加する方も多く、おおいた国際交流プラザを知るきっかけになったのではないかと思います。

おおいた国際交流プラザでは、外国語図書の貸出しを行っています。お一人1回につき10冊まで2週間借りることができます。ぜひご利用ください。配架を終えた外国語図書は無料配布を通して皆さんへ還元しています。ご自宅に眠っている外国語図書がありましたらご連絡ください。



おおいた国際交流プラザからのお知らせ

●Free Talk Class

県国際交流員（CIR）が出身国の文化や日常生活について参加者に母国語で紹介し、楽しみながら言語に触れることを目的としています。

イギリス、アメリカ、韓国出身のネイティブと交流してみませんか。（各週で1言語）

日時 金曜日 13:30～15:00

定員 10名

●語学講座

新しい言語を習得したい方、学びながらその国の魅力に触れてみませんか。興味のある方はぜひご参加ください。

対象言語：インドネシア語、ベトナム語、イタリア語（新）

定員 各10名

●通訳・翻訳ボランティア

おおいた国際交流プラザには、英語・中国語・韓国語・ドイツ語・イタリア語・ロシア語・タガログ語・スペイン語・ポルトガル語・ベトナム語・インドネシア語・タイ語・アラビア語・ヒンドゥー語・ウルドゥー語・ミャンマー語・マレー語の通訳・翻訳ボランティアが登録しています。

語学力を活かして、在留外国人のサポートをしたいという方のご登録を随時募集しています！

●日本語ボランティア

日本語ボランティアは、日本語を母語としない方に日本語を教えるボランティアです。

登録希望者は、おおいた国際交流プラザのHPから登録用紙をダウンロードしご記入のうえ、FAX、E-mail、または直接提出してください。

●医療ハンドブック

大分県内に在住する外国人のための医療ハンドブックをおおいた国際交流プラザのホームページでご覧いただけます（5か国語）
ハンドブックでは、日本の医療制度、病院のかかり方、妊娠・出産の時の対応、事故や感染症など、日本で生活で知っておきたい情報を紹介しています。

●日本語教室情報

▶あいうえおCLUB

①場 所 アイネス（大分市）

日 時 毎週火・金 10:20～11:50

連絡先 090-8353-2485 宮瀬

②場 所 コンパルホール（大分市）

日 時 毎週木 18:30～20:30

連絡先 097-532-5940 加藤

▶さくら日本語教室

場 所 大分大学国際交流会館（大分市）

日 時 毎週月 10:15～12:00

連絡先 097-528-1865 川野

▶ひまわり

①場 所 明治明野公民館（大分市）

日 時 毎週水 14:00～15:30

②場 所 鶴崎公民館（大分市）

日 時 毎週土 10:00～11:30

③場 所 コンパルホール（大分市） ※こども日本語教室

日 時 毎週土 14:00～15:40

連絡先 097-527-2614 深田

▶日本語らくらくトーク

場 所 別府市役所

日 時 毎週月 14:00～15:30

連絡先 0977-21-1131 大塚

▶BIP Japanese Conversation Class

場 所 APU PLAZA OITA (AP House 4) 1階

日 時 毎週火 11:00～12:00（入門）

12:30～14:00（初中級）

毎週水 11:10～12:40（初中級）

連絡先 0977-23-1119 神（こう）

